

令和2年6月29日

2020年度 第1回 学校関係者評価委員会 議事録

議事録：久原

【目的・目標】

自己点検、自己評価の結果や意見をいただき、学校改善・改革に繋ぐ。

【日時・場所】

令和2年6月29日（月）10：00～

福岡ベルエポック美容専門学校

【学校関係者評価委員（外部）】

卒業生代表・・・力武 毬絵（美容師科卒業生）

保護者代表・・・江口 亜希子（ブライダルコーディネーター科保護者）

高校関係者・・・矢ヶ崎 祐和（県立香椎高等学校 校長）

地域関係者・・・春山 大輔（大浜自治協議会）

業界関係者・・・早田 健（(株) ロット 代表取締役）

矢田 綾香（一般社団法人 日本化粧品検定協会 顧問）

【内容】（パワーポイント使用）

■進行：佐藤局長

■田中学校長あいさつ

新型コロナウイルスによって来校していただいた委員とオンラインでの参加の委員によって本日の会議は開催いたします。

去年はアクティブラーニングに関して話し合いをさせてもらった。意見をいただき改善につないだ。今年は、コロナ禍での学校の危機管理などに関して話をしたい。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、2月初めごろは現在の状況は予想していなかった。福岡も2月に感染者を確認した。

本校は3月より臨時休校を実施し、卒業式においては短縮で学内にて実施した。

4月に入り緊急事態宣言が発令され、国・世界でパンデミックとなる。

入学式に関しては、4月の実施を延期し、5月にオンラインで実施した。緊急事態宣言解除後からオンライン授業も始める。

6月より分散登校、2週目には全面登校という運びとなった。

まだまだ東京でも感染者が出ているので、これからどうなるかまだ分からない状況です。

本校では消毒、換気、手洗い、マスク着用など感染防止対策を徹底しています。

オンライン授業に関しては、多くの先生がやってみることで従来の授業運営の課題や改善に繋ぐことができそうだという事、録画ができるので、何度も繰り返し勉強できることが良いという話があった。

オンライン授業の課題は、実習授業です。画面を通しては伝わりにくいものが多かった。諸外国では、オンライン授業が進んでいる国も多く、学生が主体的な姿勢になっていると聞いています。エドテック、エデュケーションなど新しい常識が生まれている。今回のオンライン授業で分かったことは、今までは学校側が生徒に手をかけすぎて、サービスを提供しすぎている。学生に求められるのは自宅で授業を受けられる環境になってきたこと、応用できる力を求めているかといけなかつと感じた（教科書を読むだけではダメな時代になった）。学生が主体的に、自主的に自ら考えるようにしないといけない教育に移行が必要となると考えます。今回のコロナウィルスで、日本の教育の質を（方向性）を考える機会になったと考えられる。

■就任委嘱状交付（学校長より）

■委員会メンバー紹介（外部）

■学校参加メンバー

学校長	田中 浩一		
美容分野副運営本部長	三井 真以子		
事務局長	佐藤 誠		
美容師科学科長	三村 宗緒		
トータルビューティ科・ヘアメイク科 学科長		水谷 将也	
ブライダルコーディネーター科 学科長		柴田 薫	
高校センター長	古川 喜春		
広報センター長	成木 佳樹		
キャリアセンター	久原 靖司		

■三井副本部長（学校法人滋慶学園 美容分野副運営本部長）

福岡校に関して昨年は入学目標を達成することができたが、中途退学者もいるのが現状。ぜひ意見をいただきたい。

福岡校は比較的早く全員登校が始まったが、東京はやっとこれから登校が始まる様子。オンライン授業もやってみてわかるが、難しいと感じた。学生が主体的に学べるように改善し成長していきたいと思っている。

■学校関係者評価委員会の目的（PPT 資料参照）

評価表に関して

■会議目的の説明、実施方法（評価方法など）について（PPT 資料参照）

■職業実践専門課程について（PPT 資料参照）

■2019 年度自己評価について（PPT 資料参照）

重点校項目の確認

- ① 企業コラボによる産学連携共同教育の推進
- ② トップサロン・トップブランドゼミの実施
- ③ 美容分野 4 校と連携し相乗効果を発揮する

■学園の 5 か年計画について（PPT 資料参照）

- ・中途退学 0→ 7.5%
- ・専門就職率 95%→ 専門職就職 100%、就職率は 96.6%
- ・卒後 1 年以内の離職→ 16.6%

■教育指導について（PPT 資料参照）

- ・学生便覧とは
- ・教育活動の内容（シラバスなど）、指導計画についてなど
- ・授業アンケートに関して（授業や講義に対しての学生の反応がわかる）
- ・学生支援（学生サポートハンドブック参照）（職員のレベルを上げる）
- ・キャリア教育、進路アドバイザー、カウンセリング、サポートアンケート、SSC など
- ・地域貢献（地域からの信頼を獲得する）
- ・海外研修→ コロナウィルスで今年度は中止となる。

■今後の課題

- ・我々教職員の成長が大切。皆さんの意見をいただき、変化に対応できる人材を育てる。
- ・入学者確保と予算執行の健全経営

■2020 年度重点目標

- 1 本校の価値の創造、産学連携の推進
- 2 高校 2 年生広報に向け、高等学校と連携。指定校との関係強化（高校センターの設置）
- 3 就職計画の構築

オンライン就職活動への対応

内定最優先で学生指導

■質疑応答

矢ヶ崎先生) 高校の現状について

3月から登校できない状況だった。4月にZOOMを導入し対応。ファッションは実習メインで大変だった。話を聞いて、学生指導に力を入れていることが分かった。高校は生徒が見る視点と職員が見る視点が違う。高校は就職率と退学率が大きなポイントとなる。

矢田様)【業界代表】

5月に実施予定だった検定が11月に延期。検定試験について受験される方の意識が変わった。主体的に学びたいという方が増えた。受験対策もやる方とやらない方がはっきりしている。販売をするための知識なども求められており、法律に沿った知識を求められている。コロナ渦でも企業は売上げを伸ばしている企業と、そうで無い企業が分かれている。成功しているのはオンライン(EC)をうまく利用している。

早田様)【業界代表】

3月まではあまり影響はなさそうだったが、中年～高年ターゲットのサロンが影響を少しずつ受けていた。緊急事態宣言を受けて、天神の7割が休業。郊外サロンは休業しているサロンが少なかったようだ。結果的に例年の7割くらいの売上げと聞いている。個人店は助成金も出たので、打撃は最小限なのは。現金を持っているサロンが強く、持っていないサロンは厳しい状況。採用も遅れている傾向があり、全体的に遅れているという印象。

春山様)【地域代表】

地域としては、すべての行事が中止になり協力していこうと思った矢先で残念。社会不安が高まっていくと犯罪も増えてくるので、心配をしていた。この地区は学生が2000名ほどいる学生地区となっている。若い世代なので、元気があると思ったが、コロナ渦ではおとなしく真面目で静かに自粛していたので、感心していた。

江口様)【保護者代表】

熊本から4月に引っ越しをしたが、休校により一旦帰り、5月に再度福岡に出てきた。不要不急な外出を絶対しないように言い聞かせていた。学校に登校をはじめて、すごく楽しいという言葉も聞いて、安心している。

力武様)【卒業生代表】

今回、初めての状況で会社として4月に全体ミーティングを行った。休業などのこれからの方針を話し合った。予約が入っている方に関しては、スタッフを絞り少数で営業した。休

業中はオンラインで勉強会をするなど時間を有効利用することを考えた。新卒の方などに
関しては、技術などのフォローをしている。

古川)

就職指導をする際に数値的なものを追っていたが、それ以外に地域貢献を意識して指導し
ていた。これから地域貢献の観点で、学生がもっと成長できる、役に立つようなアドバイス
があれば教えていただきたい。

春山様)

行事としては今の状況としてなかなか実現しないが、学生と一緒に成長できるような行事
ごとを創っていけたらと思っている。地域事業の参加率を上げていってほしいと思ってい
る。選挙の投票率もなかなか上がらないこともあり、ぜひお願いしたい。

成本)

広報目線でみて、入学してくる高校生へは入学前教育として取り組みをさせてもらって
いるが、高校でミスマッチを防ぐための対策をどのようにしているか。専門学校を選ぶ指導を
どうしているか？

早田様)

2年生になって初めて就職活動を始める。それまでは自分がお客様として来店してきれい
になる場所としての認識から2年生になって初めてサロンを知る感じ。

1年生と2年生の就職活動を逆にしたほうが良いくらいだと思っている。サービスが過剰
になり学生が求めるものが強くなっている。

学生の素性もわかりにくい。SNSなど一方通行で、サロン側から学生の情報が取れない。
就職でサロンを選ぶ際に、外側しか見えてないことが多く、もっと中身を見る視点も大切
です。サロン側も努力が必要で、分散出勤をしてレッスンなども分散したりしている。

学生ももっと大人になって考えていくことが大事で、学校が学生に自分で情報をとる教育・
指導することが大事なのでは？

企業と学校と意思疎通ができてない部分もあり、お互いを知れるようにしていく必要もあ
るのでは？

美容室も会社にして、大学卒業に匹敵する待遇も。美容師は立派な職業なので、そんな職業
だという事を、学校教育でも指導してほしいと思う。高校時、専門学校で職業教育（良い点
も悪い点も）教えていくことが大事なのでは。先生たちも自分たちから情報をとっていくこ
とで、学生に知らせることもできるので、情報社会に対応できるようになることは大切。産
学連携、高専連携、などまだズレがあるように感じる。

江口様)

保護者説明会時は、マンツーマンで対応してもらい、よく理解できた。就職率や資格取得などすごく安心できた。お金を出す側としては、目標や将来をはやり気にしている。

柴田)

急激なオンライン化で学生がどのような反応があったか？

江口様)

特に問題はなさそうだ。

柴田)

サロン様ではオンラインでの対応はどうだったか？

力武様)

彼は状況がわからないので、うちの会社では問題なかったと思います。

早田様)

これからの時代は、パソコンもなくなるのでは？タブレットになってくると思う。

大げさに言うと、親もオンラインで授業を見学できたりするのでは？という印象もある。

SNS やオンラインが情報の主軸になってきそうだ。

水谷)

先ほどの就職した学生が大人になっていないことがテーマに挙げている。教育していくうえで、本人のパーソナル情報をしっかり把握し、情報を提供し考えさせることを考えていく。これからのテーマになると思いました。

三村)

地域とのかかわりの中で、学生のサロンワーク授業を通して地域と連携していけたらと思っている。関りと学生の成長を考えていきたい。

■ 閉会のあいさつ

今回のコロナウイルスですべてにおいての様々な課題が見えてきたと思う。

社会の変化に素早く対応して、成長していきたい。

当校開校時に掲げていたコンセプトである「美容師なんかじゃない」がまさに今求められているのではと考えられる。

■ 次回：10/26（月）10：00～